

# キャリア インタビュー

## 理系ならではの強みを活かし、社会に影響を与える仕事



国内最大級の強大な顧客基盤を持ち、銀行・信託・証券・アセットマネジメント等フルラインの金融機能を備えた総合金融グループ（みずほ）。今回お話を伺っている川北さんは、グループの中核をなす「みずほ銀行」に入行以来、ポートフォリオマネジメント部で銀行経営の根幹を担う業務に携わっています。大学院での専攻「応用化学」とは異分野である金融業界に就職した背景や、仕事をすることで発揮できているスキル、さらに理系女子としての就職活動に対する考え方を伺いました。

### 応用化学専攻から、金融業界に就職を決めた理由を聞かせてください

私が所属していた研究室はIT、コンサル、金融など研究者以外の道に進む人がほかの研究よりも多かったと思います。とはいえ同期の多くは研究者として進路を決めていましたし、私自身も研究の道に進む選択肢はありました。しかし、世の中のことを全く知らないまま進路を決めていいのだろうかという疑問が芽生えてきたのです。そこで就職活動では、研究者の道に絞らず様々な可能性を考えようと、色々な業界を回りました。

そのうちに専門性を追求するよりも、幅広い分野の企業活動をサポートするような仕事に就きたいと思うようになりました。もともと問題を分析して解決方法を考え、アドバイスをすることが好きだったのであります。商社やコンサルも見ていましたが、最終的に金融を選択したのは、産業界から一般消費者まで世の中全体に大きな影響を与えることができる

と考えたからです。中でも（みずほ）はフランクな人が多く、雰囲気も合う。と感じたことが決め手になりました。そしてそれは実際に仕事を進める上でも感じています。

### 現在所属されているポートフォリオマネジメント部はどのような役割を担っているのですか

銀行は様々な企業に対して融資を行います。資金需要の高い企業へ融資が集中すると、特定の業界に融資が偏ってしまう可能性があります。将来的にその業界を取り巻く景況が悪化した際には、銀行が大きな損失を被ることも懸念がかりかねません。そうしたリスクを回避するために融資全体の傾向を分析し、銀行の資産を健全な状態に保つためのコントローラーとしての役割をポートフォリオマネジメント部は担っています。

そこで私は入行以来5年間、リスクアセット軽減等を目的としたCLO（証券化商品）やCDS（クレジット・デフォルト・スワップ）という商品の開発や新たなスキームの組成などを担当していました。現在は、営業部門がリスクに見合う適切なリターンを得るためのデータベース作成などの企画業務を行っています。いずれもまさに銀行経営そのものを支える根幹の業務であり、非常に大きなやりがいと責任を感じています。

### これまで特に印象に残っている仕事について教えてください

入行4年目に新しい商品の組成を担当したことです。

もう一つは、「理系女子＝バリバリ働くキャリアウーマン」というイメージにとられ過ぎないことです。周囲からの期待やプレッシャーを感じることもありますが、実際は理系女子だから特別な存在というわけではありません。ですから、あまり気負わずに本当に自分のやりたいことを実現できる就職先を探す機会として、就職活動に臨んでほしいですね。

### 女性が働く環境としてはどう感じていますか

「どのような専門性を身に付けたか」に注目しがちですが、実際に研究テーマをそのまま活かした就職先というのは多くありません。ですから研究の中心に縛られるのではなく、研究を行うプロセスで身に付いたスキルや自身の強みをどのように社会で活かしていくかを考え、就職活動においても研究室での苦労を良い糧にしてほしいですね。

当時ヘッジ手法の確立されていなかった新たなアセットに対して、ヘッジ商品を一から作り上げるという仕事でした。私自身に銀行業務や商品組成に関する十分な知識がなく非常に大変でしたが、証券も含めたグループ内の様々な分野の方に協力を仰ぎ、プロジェクトチームを立ち上げて案件を進めていきました。関係各所との調整には苦労もありましたが、常に上司とプロジェクトの進捗を共有し、大きなトラブルなく進行できたと思います。4年目という早い段階でプロジェクトリーダーとしての役割を任せてもらえたことは、非常に貴重な経験でした。

今後のキャリアとしては、ずっと経営に近い部門にいたので、もっと営業に近い部門や審査・調査部門など、他の業務にも挑戦してキャリアの幅を広げたいですね。そして最終的には身に付けた力をまた、経営に近い部門で発揮したいと考えています。

### 仕事をする上で、理系の知識や研究室での経験が活かしていることはありますか

研究室に入る際、教授に「ここで研究に励むことで、将来どの企業に行っても通用する力が磨かれるはずだ」と言われました。その力は、課題を分析する論理的思考力や、相手に分かりやすく説明するプレゼンスキルです。これらは社会人としての基本的なスキルであり、同時に最も必要だと感じる能力でもあります。先ほどお話しした新商品組成の際も、他部署と連携を取り、目的を共有し、組織としてプロジェクトを進めていく際に非常に役立ちました。理系、特に院卒ですと「研究テーマが何か」や

就職活動の際に女性であることを特に意識したわけではありませんし、入行後も「女性だから働きにくい」と感じたことは一度もありません。（みずほ）は女性基幹職が多く、現在所属する部でも行員の約半数は女性です。入行前は「こともが生まれたら退職する人が多いだろう」と思っていました。実際に育児休暇取得後に復帰して活躍している方など、ロールモデルとなる先輩もたくさんおり、女性の活躍機会は非常に多いと思います。また、保育園を探すのが困難という人のために本社内託児所があるなど、女性にとって働き続けやすい環境が整っていると感じています。

### 最後に、理系女子に向けたメッセージをお願いします

就職活動は専門分野だけに縛られず、視野を広く持つて色々な可能性に目を向けてみると新しい発見があるかもしれません。研究室で苦労して身に付けたスキルは、どんなアピールしてほしいですね。

### PROFILE



みずほ銀行  
ポートフォリオマネジメント部  
調査役  
川北 泉（かわきた・いずみ）  
早稲田大学大学院 理工学研究科で応用物理・化学の研究を行う。2008年4月、入行。  
ポートフォリオマネジメント部  
グローバルセール推進チームに  
配属。2013年4月よりポートフォ  
リオマネジメント部 企画チーム  
にて経営企画業務に携わる。